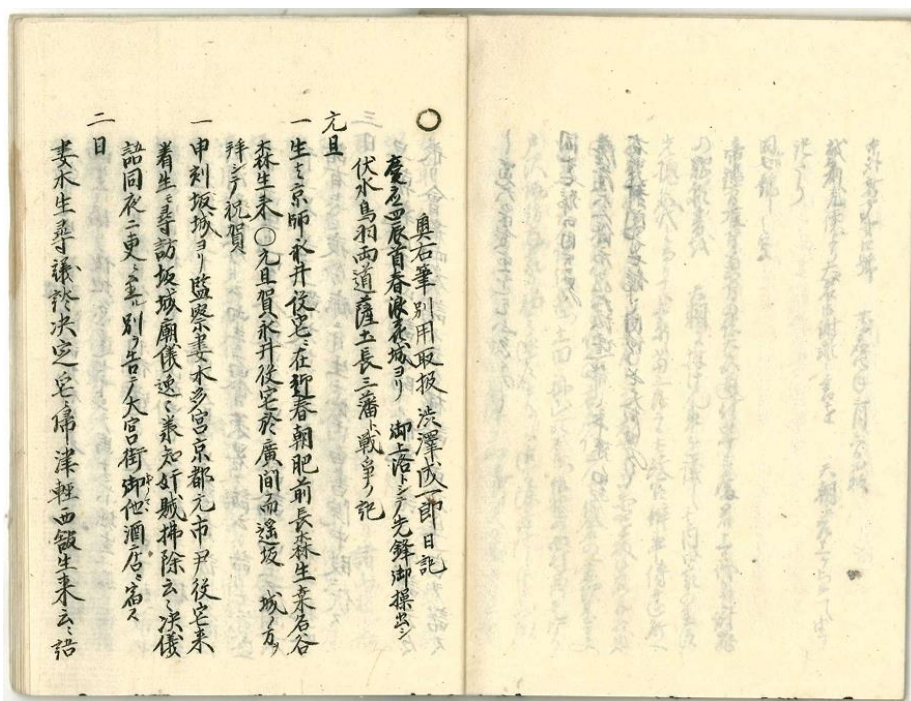


⑥ 慶応記聞三十二 \* 渋澤成一郎  
日記(鳥羽・伏見の戦い従軍記)

慶応4 (1868) 年2月

これは、赤堀伴七の記録「慶応記聞」に書き写された日記です。一橋慶喜が第15代将軍になると、渋沢栄一・喜作(成一郎、栄一の従兄)は幕臣となります。栄一は、パリ万博の際にヨーロッパに派遣された徳川昭武(慶喜弟)に従い渡欧します。一方、成一郎は慶喜の奥右筆となります。この日記は、成一郎が慶応4年1月に起きた鳥羽伏見の戦い前後の様子を詳細に記したものです。戦いに敗れた慶喜が大坂城から江戸へ軍艦で脱出し、周囲が驚愕した様子もリアルに記されています。

伊勢崎市・赤堀恒雄家文書 P8902 No. 96



【史料⑥】

奥右筆別用取り扱い 渋澤成一郎日記  
(大坂城)  
慶応四辰首春浪花城より 御上洛として先鋒御繰り出し  
(伏見)  
伏水・鳥羽両道薩・土・長三藩と戦争の記

元旦

(成一郎)  
一生は、京師永井役宅に在り、迎春朝、肥前長森生・桑名谷森生来る ○元旦の賀、永井役宅広間に於いて遙坂城の方を拝して祝賀す  
(妻木頼矩)  
一 申刻、坂城より監察妻木多宮・京都元市尹、役宅に來着、生も尋訪、坂城廟議逸々承知、奸賊を払い除け云々決儀  
(亥刻)  
語、同夜二更に至る、別れを告げて大宮街御他酒店に宿す  
二日  
妻木生尋ね、議談決定し宅に帰る、津軽西館生来る云々語る  
(中略)



火砲、儀依而、味方敗、及、僕、人、尚、人、丁、寧、間、候、所、  
毎、開、橋、本、云、々、愕、然、惣、軍、死、生、如、何、と、心、痛、暫、時、馬、を、止、め、  
引、返、衆、小、死、生、共、之、下、格、十、丁、橋、本、方、之、込、元、黒、煙、漆、盜、  
世、懇、慮、上、と、衆、人、引、返、候、共、取、功、十、五、名、報、告、下、又、引、返、  
鞭、折、大、坂、至、橋本及藤堂軍より横を打たれ終に杖火  
滿、城、藤、堂、反、復、西洋時計三周の間なり愕、然、色、を、失、げんせい、  
御、開、入、敷、君、上、御、出、向、に、成、二有り伏末と云々  
命、生、命、後、保、些、入、戦、状、逐、一、御、尋、問、志、奉、言、上、  
苦、戦、の、事、言、上、即、君、前、退、出、休、字、上、  
惣、軍、不、得、止、牧、方、守、口、引、退、申、上、と、滿、城、振、動、騒、然、  
廟、議、不、決、生、君、前、仕、向、建、言、上、白、牧、方、守、口、疲、兵、を、

引揚坂、御、衛、在、坂、之、兵、隊、二、別、に、別、に、隊、ハ、奈、良、街、道、カ、  
大、和、路、三、隊、收、方、守、口、引、退、諸、藩、兵、以、淀、川、北、涉、  
山、崎、街、道、一、隊、大、和、路、東、来兵途上三、有、海、道、ヨリ、  
草、津、大、津、押、身、大、和、路、之、兵、宇、治、道、上、歴、直十二  
京、師、折入海、道、兵、下、カ、合、之、下、依、而、本、日、之、戦、状、  
悉、く、御、承、容、之、上、篤、と、御、配、慮、更、皇、國、存、亡、之、機、御、  
運、算、悉、く、極、極、謀、合、有、汝、一、鞭、戦、状、承、り、歸、言、上、可、為、  
速、奉命馬を跨り牧方守口を出向す時初更なり  
京、橋、至、り、総、督、豊、州、帰、城、守、口、引、退、申、上、生、七、届、城、ス、惣、軍、  
引、揚、坂、中、直、布、告、云、々、有、暫、時、休、息、廟、議、如、何、大、意、候、  
間、僕、處、君、只、今、軍、鑑、大坂府牧方守口也東、歸、と、驚、愕、更、真、用、上、  
誤、傳、と、云、正、三、真、也、と、云、更、真、用、上、難、奥へ入御、

七日  
坐伺、更、人、十、初、大、息、言、語、ス、所、不、知、只、血、  
涙、而、也、大、事、息、論、像、以、力、モ、十、日、數、日、之、疲、五、時、後、  
シ、不、思、蘇、臥、ス

朝、軍、論、紛、々、更、不、決、只、流、言、誤、聞、敵、既、三奈橋、是ル  
上、若、人、心、危、七、驛、火、豊、州、兵、丹、但、四、度、諸藩兵有司、其意、見、有、  
十、八、九、開、城、東、歸、云、々、生、格、兵、即、引、而、三、聖、殿、言、シ、口、城、  
衛、決、死、之、外、他、事、不、知、安、忠、云、シ、退、云、又、四、度、言、リ、諸、有、  
司、呼、白、城、衛、決、死、上、軍、儀、一、次、依、而、開、城、東、歸、論、之、而、  
後、免、之、林、録、云、上、候、間、勝、手、三、席、上、ト、令、リ、薩、  
權、不、過、一、死、報、恩、之、秋、於、戰、勇、云、諸、有、司、ト、語、リ、  
城、論、儀、尚、不、決、然、衆、論、不、得、止、開、城、未、諸、兵、七、

八日  
逆、坂、出、生、其、他、有、志、之、面、血、涙、十、カ、衆、ト、共、三、四、字、  
坂、本、後、泉、洲、貝、塚、之、里、三、更、到、病、

九日  
貝、塚、後、泉、洲、貝、塚、之、里、三、更、到、病、  
駿、然、諸、士、城、下、入、口、五、箇、不、通、于、豊、州、之、命、ニ、云、決、志、  
惣、軍、漸、和、歌、山、引、取、回、折、為、

十日  
和、歌、山、出、用、八、小、登、老、良、橋、本、生、五、由、會、惣、軍、東、下、之、策、ヲ、  
頼、論、云、  
和、歌、山、出、用、八、小、登、老、良、橋、本、生、五、由、會、惣、軍、東、下、之、策、ヲ、  
奉、行、生、下、諸、隊、東、歸、諸、支、取、報、可、申、被、中、付、

(二月六日の日記)

火砲の儀に依りては味方敗に及び候哉と、尚土人に丁寧(計)に問い候所  
聞く毎に橋本と云々、愕然惣軍の死生いかんと心痛、暫時馬を止め  
引き返し、衆と死生を共にせんと存じ、十丁斗り橋本の方へ返る、  
黒煙いよいよ盛ん  
也、熟慮するに壱人引返し候とも敢て功なし、急ぎ報告せんと又引  
返し

鞭打ち大坂に至り 橋本より大坂までの道程八里、登城執政へ云々語り  
西洋時計三周の間なり げんせい、君上の  
滿城藤堂反復にて愕然色を失す、小子の言聲、君上の  
御開に入り候や、君上御出向にて、「成一に有りや、来れ々々」と

命あり、生も命に従い深坐に入り、戦状逐一御尋問、悉く言上に委  
ぬる  
苦戦の事言上、即ち 君前を退出し休す、一字なり、  
(時)  
四字報告有り、橋本本軍、藤堂軍より横を打たれ、終には放火、  
惣軍やむを得ず枚方・守口へ引き退きしと云々、滿城振動騒然、  
廟議決せず、生 君前へ仕向建言して曰く、「枚方・守口の疲兵を  
引揚げ坂地を衛り、在坂の兵隊二つに別け、一隊は奈良街道より  
大和路へ、一隊は枚方・守口へ南紀並び諸藩兵を以て淀川北へ涉り、  
山崎街道へ押し決戦、関東より来兵途上に有るを海道より  
草津・大津に押し寄せ、大和路の兵は宇治へ道を歴て直ちに  
京師へ打ち入り、海道**の兵と力合せんと云々**」、依りては本日の戦状  
悉く御承容の上、篤と御配慮、実に皇国存亡の一機、御  
違算これ無き様極諫す。命有りて「汝一鞭、戦状承り帰り、言上なす  
べし」と、  
速やかに命を奉じ馬に跨がり枚方・守口へ出向す、時初更なり、  
京橋に至り総督豊州帰城と聞き、守口へ至らず、生も帰城す。惣軍  
引き揚げ申すべき旨布告云々あり、暫時休息「廟議いかが決定候」と  
問い候処、君は只今軍鑑(鑑)にて東歸すと云々、驚愕、更に真用ならず  
誤伝と云、正に真也と云々、更に真用なし難く、奥へ入り御  
坐伺ふに更に人なし、初めて驚き大息言語する所を知らず、只血  
涙のみ、大事息む論儀(議)の力もなく、数日の疲労一時に発  
し、思わずも寝に臥す(以下略)